

A-A' SECTION 1:100

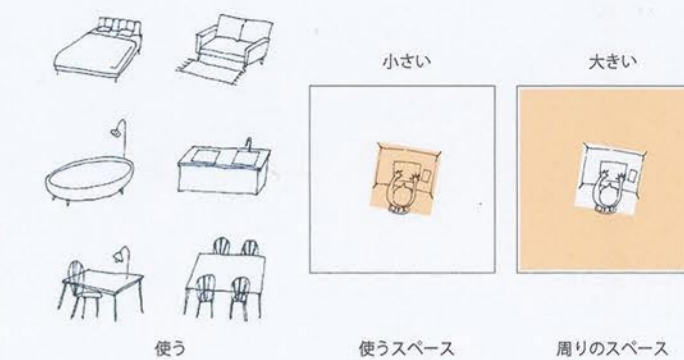
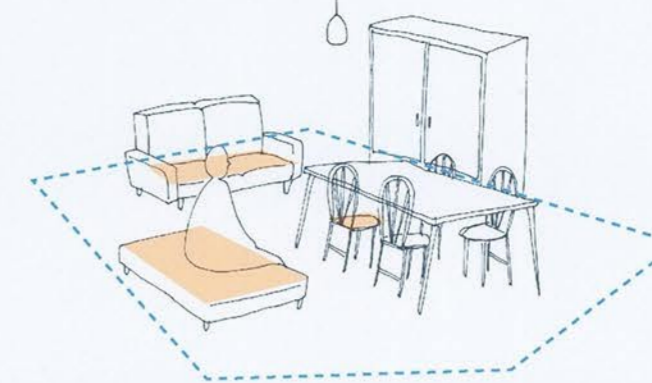
居心地を求めて

モノに溢れた生活で私たちは床を見失った。
本来あるべき「居る」という空間を取り戻したい。

床は家という大きな空間を。
穴は個人の小さな空間を。
高さの違う壁は柔らかく空間をつなぐ。

家は大きく存在し、多様な生活体系に順応していく。
私たちはお気に入りの空間を探しながら、家の時間を楽しむ。

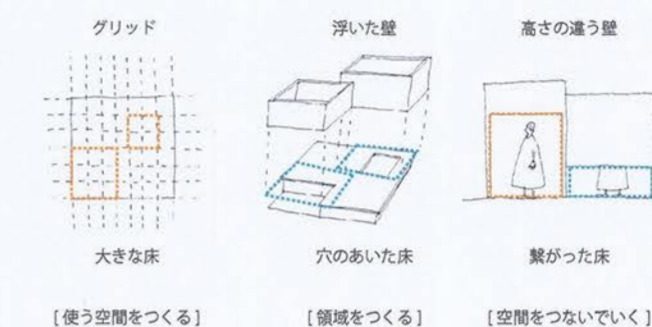
01 住まいが居ない



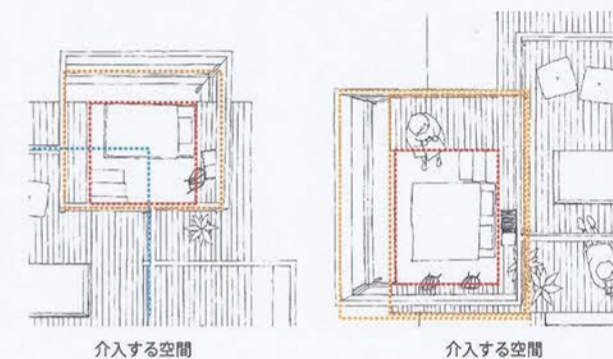
使うところに支配された空間は床の価値は下がった。普段私たちが部屋で過ごす時、いつも決まった動きに限定されてしまう。モノが増えた現代にとって、部屋は本当に居心地の良いところなのだろうか。

実際何を行う時「家具」という小さな空間で取まっている。使っていない周りの空間に注目すること、つまり実際の空間の大きさを体感する大きさが異なることで、より家という空間を有効に利用できる。

03 床のある暮らし

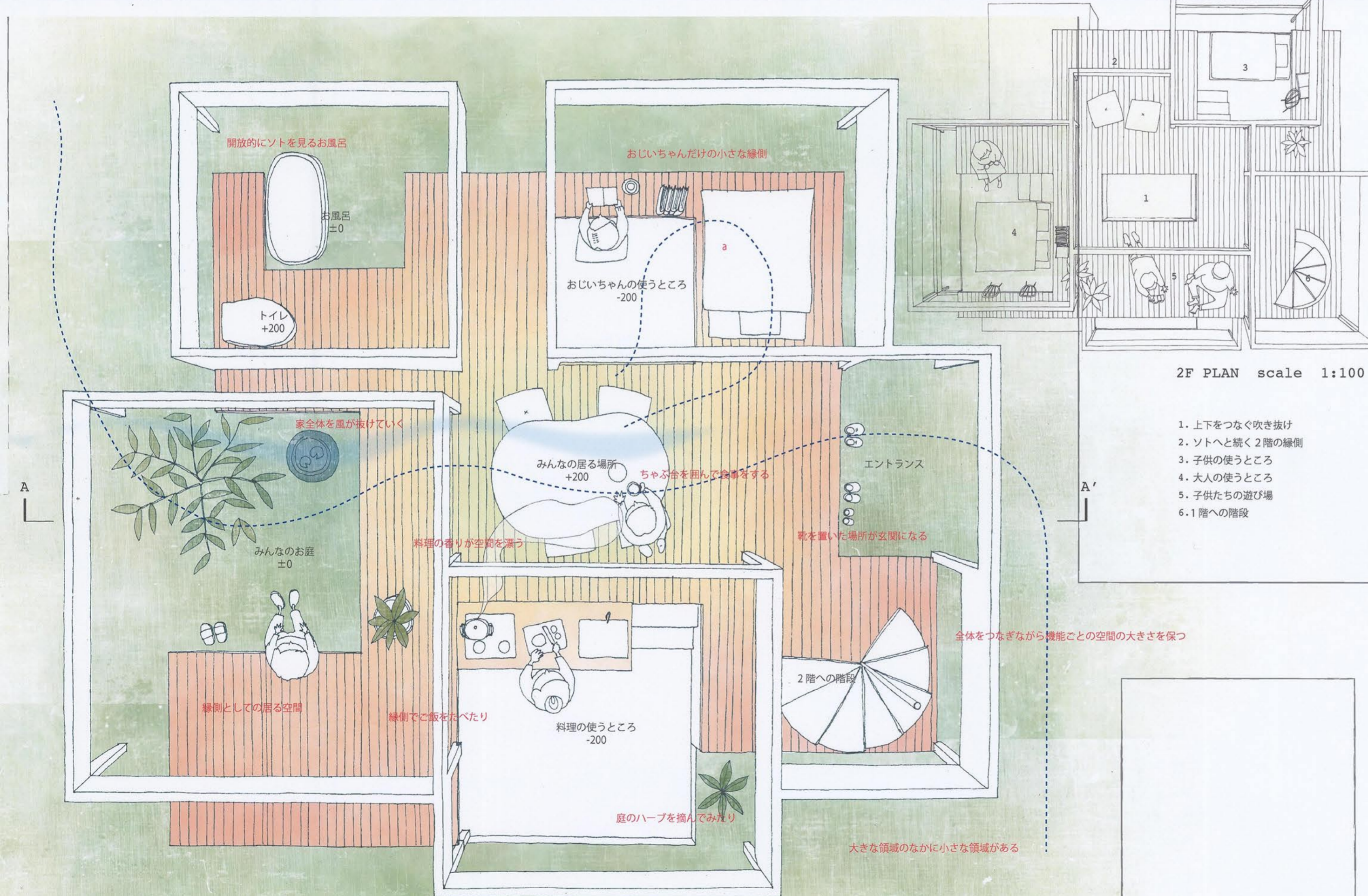


04 周辺とのとりまく空間

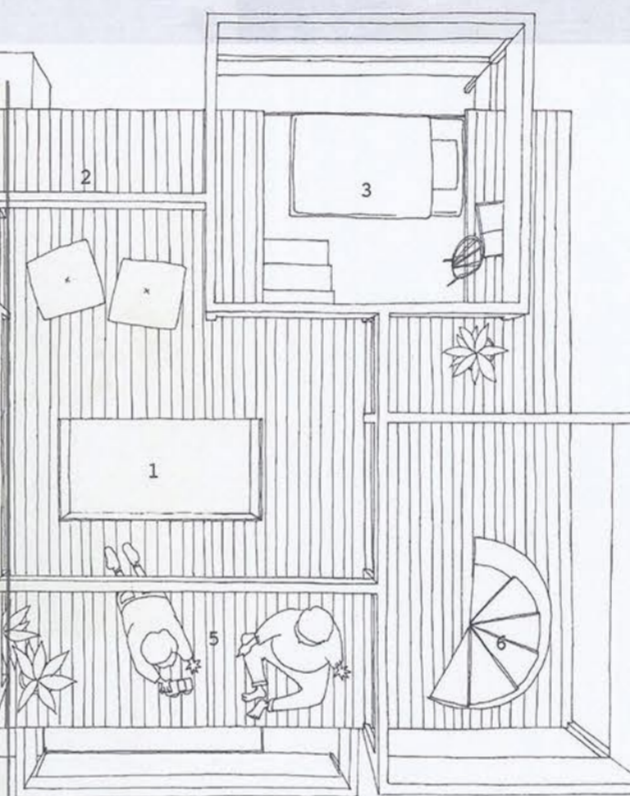


大きな床は家という単位をつくり、そこにあいた穴は個人の小さな単位の空間をつくる。壁は浮くこと、高さを変えることで、時には壁をぼく、時には梁っぽくなり、空間をつないでいく。

家の中に、大小様々な空間が存在することで、自分の好きな大きさの空間をつくる。壁は浮くこと、高さを変えることで、時には壁をぼく、時には梁っぽくなり、空間をつないでいく。



1F PLAN scale 1:50



2F PLAN scale 1:100

1. 上下をつなぐ吹き抜け
2. ソトへと続く2階の縁側
3. 子供の使うところ
4. 大人の使うところ
5. 子供たちの遊び場
6. 1階への階段

全体をつなぎながら機能ごとの空間の大きさを保つ

